

保育者養成における音楽教育の今日的課題を探る

— 東海学園大学人文学部発達教育学科第1期生の実態調査より —

The contemporary task of musical education
in a Kindergarten Teachers training is explored.

—The survey of the department 1st term student of the Tokai Gakuen
University Humanities of Human Development and Education—

高御堂 愛子
Aiko TAKAMIDO

キーワード：保育者養成 音楽経験 読譜力 保育職 専門的な知識・技術

Key words : Kindergarten teacher's training, Music experience, Power of reading a score,
Childcare job, Special acquaintance and technology

要旨

平成20年4月に設立された「発達教育学科」第1期生50名に対して、音楽の実態調査と保育者に対する意識調査を実施した。調査内容は、「入学前の音楽経験」、「楽譜の学習方法」、「歌の習得方法」、「入学動機」「将来への進路」、「保育者に対する意識」などである。

調査Ⅰでは、第1期生の入学時の音楽技能は、半数がピアノ未経験者で、保育者に必要となる音楽活動の楽譜を読む力は、極めて低かった。学生の殆どが音楽の学習は、機器や人に頼り聴いて覚えるといった受け身的な学習であった。しかし、調査Ⅱでは、保育・教育職に対する意識は、殆どの学生が、将来の職業に関し強い意識を持っており、保育・教育者になるためには、専門的な知識と技術が必要であると認識していた。調査Ⅲでは、小人数による指導、学生の真剣な学習は楽譜を読む力を向上させた。結果、ピアノ初心者進歩状況が著しく変化した。保育者としての意識にも前向きな回答が得られた。

本研究は、これらの調査結果を踏まえて、保育者・教員養成における音楽教育の在り方を検討し、音楽（Ⅰ～Ⅲ）の授業を考察した。

Abstract

An opinion poll on a student's musical survey and childcare workers was carried out. In examination I, the Freshmen students had low ability and could not read a score. The half of the student's had no experience of the piano. The ability of reading the

score for musical activities which is needed for a childcare worker was very low.

The students took a passive tutorial. The students recognized it as a special skill being important for a childcare worker. The earnest tutorial raised the ability of reading a score. Piano beginners did progress remarkably. The comments of the students showed a strong desire to become a childcare worker.

はじめに

平成20年3月28日、「小学校学習指導要領」、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」が同時に改訂になり、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」は、平成21年4月より施行され、「小学校学習指導要領」は、平成23年に全面実施される。

今幼稚園教育要領の改訂の背景は、教育基本法（平成18年）と学校教育法〈平成19年〉が、それぞれ改正され、幼稚園の位置づけがより明確になり、幼児期の教育の重要性が強調されている。幼稚園が小学校以降の学校教育の基礎として位置づけられ、義務教育に準じる教育であることが明確になった。激変する社会の変化に対応できるよう、発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実が求められている。また、幼稚園と家庭が相互に連携して幼児期の教育をしっかりと行うこと、つまり幼稚園生活と家庭生活の連続性を踏まえた幼稚園教育の充実である。さらに、子育て支援と預かり保育の充実である。今回の改訂には、保育行政の動向や社会変化が大きく関係していることは明らかである。

そのため、資質の高い専門性と豊かな人間性が指導者には求められている。

近年の養成校へ入学する学生は、音楽経験が多様化し、ピアノ経験のない学生や、人前で歌うのが苦手な学生や、楽譜にはドレミを記入しないとピアノが弾けないなど様々な学生が多く見られるようになった。また、人前での表現活動を苦手とする学生が、カラオケなどの集団活動では、活発に表現している。このような表現することが、苦手とされる原因として、学生たちのコミュニケーション能力の低下が考えられる。

さらに、大学全入時代と言われ、保育者養成校においては、子どもが好きだからという理由だけで入学してきている学生を我々は、教育して現場へ送りださなければならない状況にある。

このような状況に対して保育者・教員養成校における音楽教育の在り方を探るため、保育・幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の能力について検討をすることにした。

そこで、平成20年4月、東海学園大学人文学部に発達教育学科が新設され第1期生50名が入学した。音楽担当の筆者は、第1期生50名を対象に、1年次から2年次春学期期間における音楽関連調査を3回実施した。

調査内容は、学生の「入学前の音楽経験」と「楽譜の学習方法」、入学後2ヶ月に「保育者に対する意識」と「音楽状況」、2年次「音楽状況」と「保育者の意識」などである。この調査は、学生の実態を把握したうえで、学生が抱える音楽的課題や問題点を解消し、より充実した音楽教育を

遂行できるように支援することを目的とするものである。

第1章では、実態調査ⅠとⅡとして、1年次の2度の調査、第2章では実態調査Ⅲとして2年次の調査をまとめ報告する。これらの結果を踏まえて、第3章では、1年半わたる音楽指導の実践を振り返り考察し、今後の課題を挙げる。

第1章 実態調査ⅠとⅡ（1期生の1年次における「音楽実態」と「保育者としての意識」）

1. 調査対象

東海学園大学人文学部発達教育学科1年生 48名（男性20名、女性28名）回収率100%。なお、発達教育学科在籍者数は50名である。（無記名）

東海学園大学人文学部発達教育学科平成20年度入学にした第1期生の音楽Ⅰ（ピアノ・音楽理論）に出席した48名の学生に対して実施した。

2. 調査時期

実態調査Ⅰ：平成20年4月11日（金）

実態調査Ⅱ：平成20年6月4日（月）

3. 調査方法

実態調査Ⅰ：音楽Ⅰ（ピアノ・音楽理論）の授業時間内で調査票を配布し・実施および回収した。回収率100%。（無記名）

実態調査Ⅱ：「発達教育学概論」の授業前に調査票を配布・実施および回収した。回収率100%。（無記名）

なお、調査票の音楽調査は、平成19年度全国大学音楽学会中部地区学会作成の調査票「入学前の音楽経験の有無」を使用した。「保育・教育者の意識」は平成5年1月作成の日本短期大学協会保育科研究員会作成の調査票Ⅱ、Ⅴ、Ⅵの質問項目の一部を使用、作成。

4. 結果

（1）実態調査Ⅰ

① 学生の入学前の音楽経験

a. 大学入学前のピアノレッスン経験の有無および習熟度

表1は、保育者・教員を目指し本学へ入学した学生に、入学前の音楽経験の有無を尋ねたものである。回答者の男女比は、男子20名、女子28名である。経験なしは、48名中24名が未経験者(50%)であると回答している。特に、うち男子20名(41.7%)が未経験者という結果であった。反対に女子は28名中24名が経験ありと回答あり、男女差が大きく分かれた結果であった。

表1 入学前のピアノ経験

性別	経験	
	あり	なし
合計	24 50.0%	24 50.0%
男子	0	20人 41.7
女子	24 50.0	4 8.3

では、24名の学生が、ピアノの経験ありと回答したが、どの程度のピアノの習熟度であるかを調査したものが、以下の表2である。

表2は、学生が、入学までにどの程度ピアノが弾けたかを質問したものである。

ピアノ経験ありと答えた24名中から17名(35.4%)がバイエル程度、ブルグミュラー程度5名(10.4%)、上級者のソナタ程度が2名(4.2%)という回答がであった。この調査時点では、第1期生は、未経験者(50%)とバイエルの初心者(35.4%)という音楽経験の浅い学生が多数占めていた。

では、実際に発達教育学科へ入学した第1期生は、果たして学校(小・中・高校)教育の音楽授業でどのような内容について学んできであろうか。次の項目で検証してみる

b. 学校教育で受けた音楽の認識度

表2 入学前のピアノ習熟度

習熟度	比例	人数	%
			48
ピアノ経験なし		24	50.0
バイエル程度		17	35.4
ブルグミュラー程度		5	10.4
ソナチネ程度		0	0.0
ソナタ程度		2	4.2

表3 音楽の授業の中で学んだ内容

	歌・合唱		楽器の演奏		音楽鑑賞		楽典		創作		音楽史		その他	
記述総数	36人		29人		29人		19人		6人		22人		2人	
第1位	31	86.1	4	13.8										
第2位	4	11.1	15	51.7	11	37.9	4	21.1			2	9.1	1	50.0
第3位	1	2.8	5	17.2	13	44.8	7	36.8	1	16.7	6	27.3		
第4位			3	10.3	4	13.8	3	15.8	1	16.7	8	36.4	1	50.0
第5位			2	6.9	1	3.4	5	26.3	1	16.7	5	22.7		
第6位									3	50.0	1	4.5		
第7位													2	

左(人数) 右(%)

表3は、学校(小学校・中学校・高等学校)の音楽の授業で何を学んだか認識度を調査したものである。7つの選択肢を設け、学生の意識の中でよく学んだ内容順に回答を求めた。

この結果、第1位「歌・合唱」(86.1%)、第2位「楽器の演奏」(51.7%)、第3位「音楽鑑賞」(44.8%)、「楽典」(36.8%)、第4位「音楽史」(36.48%)という順位であった。

音楽授業では、48名中36名の学生が、「歌・合唱」を学んだと答え、「歌う」ことが音楽の授業での中心活動であったことは、明らかである。次に、約50%強の学生が音楽の授業で何らかの「楽器」に触れ親しんだという経験を持ったことは明らかである。やはり「楽典」「音楽史」、「創作」などになると意識が低くなっている。以上の結果から、学生たちは、「楽典」「音楽史」などの「学習」的なものは苦手であると分かる。反対に自分自身の身体を使って能動的に表現することができる音楽活動、つまり、うたや合奏などが好きであるということが理解できる。学生達が学校教育で受けた音楽の認識度が、この調査からおおよそ伺い知ることができる。

② 楽譜の学習方法

a. 楽譜の読み方をおぼえたところ

表4 楽譜の読み方を覚えたところ（複数回答）

場所・方法	全体 48		ピアノ習熟度別							
			未経験 24人		バイエル 17人		ブルグ 5人		ソナタ 2人	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1. 小学校	17	35.4	10	41.7	7	41.2	0	0.0	0	0.0
2. 中学校	17	35.4	10	41.7	5	29.4	1	20.0	1	50.0
3. 高校	7	14.6	6	25.0	1	5.9	0	0.0	0	0.0
4. 部活	4	8.3	2	8.3	1	5.9	1	20.0	0	0.0
5. 習事	24	50.0	0	0.0	17	100.0	5	100.0	2	100.0
6. 友達	2	4.2	1	4.2	1	5.9	0	0.0	0	0.0
7. 独学	6	12.5	5	20.8	1	5.9	0	0.0	0	0.0
8. その他	4	8.3	2	8.3	1	5.9	0	0.0	1	50.0

※ブルグ（ブルグミュラー25番）

表4は、学生に、楽譜の読み方をどこで学んだかを尋ねたものである。「小学校」「中学校」「高等学校」の各授業からと、「部活」「習い事」「友達に教えてもらう」「独学」「その他」の8項目から選択肢を設け、複数回答可とした。

この表4は、「全体」と「ピアノの習熟度別」に分けて表した。「全体」の項を比率の高い順にあげると、「習い事」（50%）で覚えたが第1位にあるが、「小学校、中学校、高等学校で学んだ」を一つのくくりとしてみると85.4%の学生が、楽譜を「学校教育」で学んだと認識している。これを「ピアノ習熟別」と比較してみると「レッスン経験あり」と回答した全員の学生24名は、「習い事」で学んだと認識している。一方レッスン経験のない学生は、特に小、中学校で学んだと認識している。

では、筆者の先行研究である「養成大学における音楽経験について」平成19年度の全国大学音楽教育学第23回全国大会倉敷研究発表と比較してみると、倉敷発表では、「部活で覚えた」が50%以上と回答しており、本学の学生は「部活」でなく「小・中・高等学校教育」で覚えたところ、回答している学生が多かった。（倉敷データは、3大学208名の集計である。）

本学の学生の特徴をあげると、ピアノ経験者は、「習い事」で覚えたところと回答しており、反対にピアノ未経験者は、「部活」「習い事」より「学校の音楽授業」の中で楽譜についての情報を得たと回答している。この結果は、「音楽を愛する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い豊かな情操を養う」という教育目標を持った学校教育の役割がいかに重要であることを示唆するものである。しかし、表3からは、学生が実際にどの程度楽譜が読めるのか、その読譜力についての能力は、はっきりしない。

そこで、次に、学生自身がどの程度楽譜を読む力（以下読譜力という）を持っているかを5段階で設問し回答をもとめた。

b. 学生の読譜に関する認識度

表5 楽譜を読めますか

読譜力	対象		ピアノ習熟度別							
	全体 48人		未経験		バイエル		ブルグミュラー		ソナタ	
	48人	100%	24人	100%	17人	100%	5人	100%	2人	100%
1. 全く読めない	5	10.4	5	20.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2. あまり読めない	14	29.2	8	33.3	6	35.3	0	0.0	0	0.0
3. どちらでもない	10	20.8	6	25.0	4	23.5	0	0.0	0	0.0
4. わりに読める	11	22.9	1	4.2	7	41.2	3	60.0	0	0.0
5. かなり読める	4	8.3	0	0.0	0	0.0	2	40.0	2	100.0

表5は、学生の読譜に関する意識調査を表したものである。48名の学生にどの程度楽譜が読めるか、「全く読めない」から「かなり読める」の5段階で設問し、結果は、「全体」と「ピアノ習熟度別」にわけて表した。「全体」を見ると40%の学生が楽譜を読むことを苦手と意識している。反対に、4段階以上の30.2%の学生は、楽譜をよく読めると意識していた。では、ピアノ習熟度別に見ると、ピアノ習熟度の高いブルグミュラー、ソナタの学生ほど「楽譜を読める」という意識が強い。表4の結果からもわかるように「習い事」が学生の読譜力の意識と大いに密接な関係を持っている。つまり「習い事」で楽譜を覚えたということである。しかし、ピアノ未経験者であるが、「どちらでもない」から「わりに読める」と回答した約40%の学生は、楽譜を読めると意識している。これは、ピアノ以外の楽器演奏や合唱、器楽合奏の経験者がいるためである。

そこで、学生たちがよく学んだと意識している音楽授業の内容は、「歌・合唱」であったことは前に明らかにした。では、次に「歌う活動」のその歌をどのような方法で覚えたのかを3つの場面から検証してみたいと思う。

③ 歌の習得方法

表6 歌の覚え方（複数回答）

方法	対象 全体 48人 (100%)	■学校の音楽授業（ピアノ習熟度別）				■合唱 発表会 91人 (100%)	■自分の歌 いたい歌 92人 (100%)
		未経験 24人 (100%)	バイエル 17人 (100%)	ブルグ 5人 (100%)	ソナタ 2人 (100%)		
1. 楽譜を階名唱	25 (52.1)	12 (50.0)	9 (52.9)	2 (40.0)	2 (50.0)	23 (25.3)	7 (7.6)
2. 音源CDを聴く	18 (37.5)	8 (33.3)	9 (52.9)	2 (40.0)	1 (25.0)	27 (29.7)	44 (47.8)
3. 友達が歌う	18 (37.5)	10 (41.7)	7 (41.2)	1 (20.0)	1 (25.0)	17 (18.7)	20 (21.7)
4. 楽器で音をとる	21 (43.8)	8 (33.3)	11 (64.7)	1 (20.0)	1 (25.0)	16 (17.6)	9 (9.8)
5. 独学で覚える	4 (8.3)	3 (12.5)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (7.7)	12 (13.0)
6. その他	1 (2.1)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0	1 (1.1)	0 (0.0)

さて、表6は、学生が、歌をどのようにして覚えるかについて(7)「学校(小・中・高)の音楽授業」、(イ)「合唱発表」、(ウ)「自分が歌いたいと思う歌」の3つの場面に分けて調査した結果を表6にまとめたものである。なお、(7)の「学校の音楽授業」は、「全体の分布」と「ピアノ習熟度別」で捉え、他の(イ)と(ウ)は全体で捉え表した。

さて、(7)の学校(小・中・高)の音楽授業での歌の覚え方は、全体から見ると、「楽譜をドレミと読んで歌い覚える(階名唱法)」(52.1%)、「音源のCDを聴いて覚える」(37.5%)、「先生・友達が歌うのを聴いて覚える」(37.5%)、「楽器で音をとって覚える」(43.8%)と大きな差は見られなかった。ピアノ習熟度別に見ると、「未経験者」、「バイエル」、「ソナタ」レベルの学生に「楽譜をドレミと読んで歌い覚える(階名唱法)」(50%)の回答があり同様に「ブルクミュラー」も40%の高い回答であった。さらに、「楽器を弾いて音を覚える」という「バイエル」の64.7%の学生の回答があったが、殆どのレベルの学生は、CDなどから覚えるという点は共通していた。つまり、学生たちは、耳から歌を覚えていることがこの結果から明らかである。

「耳から歌を覚える」という状況は、他の(イ)「合唱発表」、(ウ)「自分が歌いたいと思う歌」にも共通した結果が出ている。「自分で歌いたいと思う歌の覚え方」は、約70%の学生が、CD、先生・友達の歌うのを聴いて覚えるとあり、現在の学生達のほとんどは、機器などの音源から聴き覚えるという実態が明らかになった。歌は、確かに読譜力が無くても耳から覚えられるのという利点がある。しかし、覚えられる歌が、音源のあるものに限られる。

学校教育の音楽は、歌だけを教育するものではない。楽器の演奏、創作、鑑賞など様々な内容の指導がある。小学校教員には耳に頼らず、あらゆる音楽を能動的に取り入れる力が必要となる。その基盤となるのは、読譜力といえる。日常的に楽譜を読む習慣が身につけているとは言えない。そこで、保育・教員養成機関では、まず、学生が楽譜を読んで歌ったり、弾いたりする習慣をつけ、基礎的な知識の獲得とともに表現力の育成につなげていく必要があると考える。

以上、学生の入学時における音楽に関する実態調査を実施した。

(2) 実態調査Ⅱ

① 入学動機

表7は、「あなたは何故発達教育学科を選択しましたか」と9項目の選択肢から学生に入学動機を問うたものである。結果は、第1位に58%が「子どもが好きだから」、第2位33%「教

表7 あなたは何故発達教育学科を選択しましたか

入学動機	対象	
	48人	100%
1. 子どもが好きだから	28	58%
4. 教員・保育者として仕事がしたい	16	33%
2. 自分の子どもを育てるのに役立つ	1	2%
3. 資格を取っておけば将来の生活に役立つ	1	2%
5. 先生にすすめられた	1	2%
9. その他	1	2%

員・保育者として仕事をしたい」、以下「自分の子どもを育てるのに役立つ」「資格を取っておけば将来の生活に役立つ」「先生にすすめられた」「その他」の各1人(2%)の順であった。では、学生に「将来どこで働きたいか」を次に問うてみる。

② 希望就職先

表8は、「将来保育者・教員として働く場合のどこで働きたいですか」と希望就職先を問うたものである。希望就職先は、48名中「小学校」21名(43%)、

表8 希望就職先(入学後2ヶ月)

希望就職先 性別	1. 幼稚園	2. 保育園	3. 小学校	4. その他
合計	10 20.8%	14 29.2%	21 43.8%	3 6.30%
男	3	2	13	2
女	7	12	8	1

「保育所」14名(29%)、「幼稚園」10名(20%)、「その他」3名(6%)の順であった。

③ 保育・教員職のとらえ方

表9は「保育者・教員という職業をどう思っているか」と尋ね8項目の中から3つ選択させたものである。結果は、表9に示す第1位「子どもが好きでないとつとまらない」(79.0%)、

表9 保育者・教員という職業をどう思うか(3つ回答選択)

質問項目	対象	
	48人	100%
5. 子どもが好きでないとつとまらない	38	79
1. 心身とも健康でなければならない	31	64
8. しっかりした人生観・教育観がなければならない	21	43
6. 対人関係が難しい	16	33
7. 高度な専門知技術が要求される	16	33
3. 重要で社会的に認められている	11	22

第2位「心身ともに健康でないとつとまらない」(64%)、3位に「しっかりした人生観・教育観がなければならない」(43%)、第4位に「対人関係が難しい」と「高度な専門的な知識が要求される」(16%)を挙げている。そこで、次に「保育者・教員に何が必要なことか」と16項目から複数回答を求めた。

④ 保育者・教員として必要と思うこと

さて、学生が保育者・教員として必要と思っていることは、表10に示すように、48名中第1位に「子ども理解」(70.8%)、第2位「子どもが好き」(58.3%)、第3位「根気」(39.6%)、以下第4位「責任感」、第5位「指導力」、第6位「熱意」、第7位「専門的な知識技術」の順に挙げている。

表10 保育者・教員に必要なこと

保育者・教員に必要なこと	対象	
	48人	100%
3. 子どもを理解する	34	70.8
4. 子ども好きである	28	58.3
12. 根気が強い	19	39.6
6. 責任感が強い	12	25.0
11. 指導力がある	11	22.9
5. 熱意(意欲)がある	10	20.8
9. 研究心がある	3	6.3
7. 協調性がある	2	4.2
8. 明朗快活である	2	4.2
14. 社会的常識がある	2	4.2
10. 創造力に富んでいる	1	2.1
15. その他	0	0.0

これは、入学2ヶ月経った学生の「保育者・教

(3つ回答選択)

員」に必要と思っている意識として捉えている。

⑤入学動機と保育者・教員に必要なこと

表 11 入学動機と保育者・教員に必要なこと（クロス集計）

保育者・教員 に必要なこと 入学動機	子ども好き		教員の仕事		将来役立つ		子育て役立つ		その他	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
合計	28人	100%	16	100%	1	100%	1	100%	1	100.0
1. 専門的な知識・技術がある	6	21.4	3	18.8						
2. ピアノがよくひける	3	10.7	3	18.8	1	100.0				
3. 子どもを理解する	21	75.0	10	62.5			1	100.0	1	100.0
4. 子ども好きである	20	71.4	6	37.5	1	100.0				
5. 熱意（意欲）がある	6	21.4	4	25.0			1	100.0		
9. 研究心がある			2	12.5			1	100.0		
10. 創造力に富んでいる			1	6.3						
11. 指導力がある	5	17.9	5	31.3			1	100.0		
12. 根気が強い	14	50.0	4	25.0					1	100.0
13. 健康である	3	10.7								
14. 社会的常識がある						0.0				

表11は、「入学動機」と「保育者・教員に必要なこと」をクロスして関連をさぐった。第1期生の入学動機の理由は、48人中第1位28人（58%）「子どもが好きだから」、第2位16人（33%）「保育者・教員として仕事がしたい」、以下各1人（2%）「自分の子どもを育てるのに役立つ」「資格を取っておけば将来の生活に役立つ」「先生にすすめられた」「その他」である。

28名の学生は、保育者・教員に必要だと思うことの第1位に「子ども理解」（75.0%）、第2「子どもが好き」（71.4%）、第3位「根気」（50.0%）を取り上げている。では、「教員の仕事に就きたい」という理由で入学した16名の学生は、第1位[子ども理解]（62.5%）、「責任感」（43.3%）、「子ども好き」（37.5%）.以下「指導力」「根気」と挙げている。

このように学生は、「子ども好き」と「保育者・教員として仕事をしたい」という理由の場合は、「子どもが好きなこと」と「子ども理解すること」という項目の割合がともに高くなっている。

⑥就職希望先と保育者・教員として必要なこと

表12は、「就職希望先」と「保育者・教員として必要なこと」をクロスして関連をさぐったものである。第1期生の48名中「幼稚園」を希望して入学した10名の学生は、保育者・教員に必要なことと思うことに第1位を「子どもが好き」（70.0%）、第2位に「子ども理解」と「根気」の（60.0%）を取り上げている。では、「保育園」を希望した14名の学生は、第1位 [子ども理解]（64.3%）、「責任感」（43.3%）、「子ども好き」（57.1%）.以下[根気]（50%）と挙げ、「ピアノ」と「指導力」（21.4%）と挙げている。

表12 就職希望先と保育者・教員として必要なこと（クロス集計）

保育者・教員 に必要なこと	幼稚園		保育園		小学校		その他	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
合計	10	100%	14	100%	21	100%	3	100%
1. 専門的な知識・技術がある	3	30.0	3	21.4	2	9.5	1	33.3
2. ピアノがよくひける	1	10.0	3	21.4	3	14.3		
3. 子どもを理解する	6	60.0	9	64.3	17	81.0	2	66.7
4. 子ども好きである	7	70.0	8	57.1	13	61.9		
5. 熱意（意欲）がある	1	10.0	2	14.3	5	23.8	2	66.7
6. 責任感が強い	2	20.0	4	28.6	5	23.8	1	33.3
10. 創造力に富んでいる			1	7.1				
11. 指導力がある	1	10.0	3	21.4	7	33.3		
12. 根気が強い	6	60.0	7	50.0	6	28.6		
13. 健康である	1	10.0	1	7.1	3	14.3		
14. 社会的常識がある	1	10.0					1	33.3

次に「小学校」を希望した21名は、第1位を「子ども理解」（81.0%）と第2位に「子どもが好き」（61.9%）、以下「指導力」と「根気」「熱意」「責任感」「ピアノ」「健康」を取り上げている。その他を希望した3名の学生は、第1位[子ども理解]と「熱意」の（66.7%）を取り上げ、以下同じ比率（33.3%）で「専門的な知識」「責任感」「協調性」「明朗快活」「社会的常識」を取り上げている。

以上4つの希望先は殆んどが、上位に「子ども理解」と「子ども好き」挙げている。保育所と小学校に第5位に「ピアノ」を取り上げている。その他は、施設を希望している学生である。ここを希望する学生は、第1位に「子ども理解」と「熱意」をあげている。

⑦ 読譜力と保育者・教員に必要なことを

表13 読譜力と保育者・教員として必要なこと

保育者・教員 に必要なこと	低		中		高	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
合計	20人	100%	10人	100%	18人	100%
3. 子どもを理解する	15	75.0	7	70.0	12	66.7
4. 子ども好きである	11	55.0	7	70.0	10	55.6
12. 根気が強い	7	35.0	4	40.0	8	44.4
1. 専門的な知識・技術がある	5	25.0	3	30.0	1	5.6
5. 熱意（意欲）がある	5	25.0	2	20.0	3	16.7
11. 指導力がある	5	25.0	3	30.0	3	16.7
8. 明朗快活である	2	10.0				
9. 研究心がある	1	5.0			2	11.1
14. 社会的常識がある	1	5.0			1	5.6
7. 協調性がある			1	10.0	1	5.6
10. 創造力に富んでいる					1	5.6

さて、表11と表12では、保育者・教員に必要なことは、殆ど上位は「子ども理解」と「子どもが好き」を挙げている。さて、子どもたちが音楽を聴いて心動かされ、自分も歌い・演奏したいと思うような範唱や範奏を教師がするには、読譜力は勿論のこと表現力も大いに求められる。

そこで、表13は、「楽譜を読む力（読譜力）」と「保育者・教員に必要なことを」クロスして関連を探った。さて、読譜力の「低い」の学生は、第1位に「心身ともに健康でなければならない」をあげ、第2位に「こどもが好きでないとつとまらない」を挙げている。読譜力の「中」の学生は、第1位に「こどもが好きでないとつとまらない」を挙げ、読譜力の「高い」学生では、やはり、「こどもが好きでないとつとまらない」をあげている。読譜力が高い低いにかかわらず、学生は必要な教育観に第1位を「子ども理解」、第2位を「子ども好き」第3位を「根気」ととらえている。特記すべきは、読譜力の低い学生が「専門的知識」と「指導力」を必要な教育観としてあげている。

つまり、これは学生が必要として考えている能力と捉えられる。

⑧ 入学後2ヶ月経ったピアノ習熟度

さて、表14は、学生の2ヶ月経って6月の初旬に調査したピアノ習熟度状況である。初心者が大変多い第1期生であるが、2ヶ月経過したバイエルの習熟度状況を表したものである。この表から確実に学生の音楽をする力がついてきているのが、読み取れる。未経験者が24名のいる第1期生であったが、2ヶ月でバイエルの40～50番まで取り組んでいる学生が20名いるということは、初心者の学生がいかに必死に努力しピアノに取り組んでいるからである。

表14 入学2ヶ月後のピアノ状況

	バイエル番号分布	人数48	%
バイエル (39)人	10～19	1	2.1
	20～29	9	18.8
	30～39	6	12.5
	40～49	4	8.3
	50～59	7	14.6
	60～69	1	2.1
	70～79	2	4.2
	80～89	1	2.1
	90～99	5	10.4
	100～	3	6.3
中級 (9)人	ブルグミュラー程度	5	10.4
	ソナチネ・ソナタ以上	4	8.3

5. 考察

本学第1期生は、85%がピアノの初心者で、音楽能力に関しては、将来保育・教育実践に必要なとなる音楽活動のための楽譜を読む力は、極めて低かった。また、音楽を覚える方法は、耳ピアノ経験の有無に関わらず楽譜を読んで音楽を自分に取り入れる学生が少なく、CDなどの音源に頼る傾向が顕著であった。また、音楽経験が長くある学生であっても、日常的に楽譜を読む習慣があまりついていなかった。必ずしも学生の音楽経験者が、読譜力や基礎知識を持ち合わせてはいなかった。ところが、殆どの学生は、将来の進路を大学入学前から決めており、保育職や教育職に対する意識は各自が大変強い意識を持っている。そのための専門的知識を学ばなければならないことを認識はしていた。専門的な学習が重要になってくる。

今後の課題として、保育者に必要とされる資質や音楽力は、豊かな感性を持ち、子どもの発達を理解し子どもの表現を援助しとにも楽しく表現する能力である。そのためには、養成機関で、学生の音楽力を目指し楽譜を読んで歌ったり弾いたりする習慣づけ、基礎的な音楽の知識の獲得とともに、表現力の育成につなげていく必要があると考える。

第2章 実態調査Ⅲ

1. 調査対象

東海学園大学人文学部発達教育学科2年生50名（男性21名、女性29名）回収率100%。なお、発達教育学科在籍者数は50名である。（無記名）

東海学園大学人文学部発達教育学科平成20年度入学にした第1期生の音楽Ⅲ（ピアノ・音楽理論）に出席した50名の学生に対して実施した。

2. 調査時期

平成21年7月24日（木）に実施

3. 調査方法

音楽Ⅲ（弾き歌い）の授業時間内に調査票を配布し・実施および回収した。回収率100%。（無記名）

4. 結果

（1）実態調査Ⅲ

① 2年次ピアノ習熟度とその練習方法

さて、表15は、第1期生が、2年次になり春学期の期末試験で実施したピアノの実技の習熟度を表したものである。この表からは、確実に学生達の音楽力（ピアノを弾く）が身について進歩の跡が見られる。入学時の学生の習熟度は、ピアノの未経験24名、バイエル初心者・中級者17名、ブルグミュラー5名、ソナタ2名という状況であった。そのような学生が、2年

表15 2年次ピアノ習熟度別

習熟度別	対象 第1期生・2年次 (7月末)	
	50人	100%
バイエル90~100	15	30.0
バイエル終了	10	20.0
ブルグミュラー程度	21	42.0
ソナチネ程度	2	4.0
ソナタ程度	2	4.0

次春学期実技試験曲には、バイエル90~100番台に50人中15人（ピアノ未経験者）、バイエルを終了した学生10人（未経験者）、バイエルからブルグミュラーへ進級した16人を含む21人、ブルグミュラーからソナチネレベルへ進級した2人である。これは、入学時の表2習熟度状況と比較すれば学生のピアノ習熟度が高くなったのは、あきらかである。

なお、本学で初心者の指導にバイエルを用いていることは、まだ、東海地方では、就職試験においてバイエルを採用している現場が多くあり、養成校側として見過ごすことできない現状のためである。その対策として、80番以上をピアノの習熟度に関係なくバイエルを課題に取り入れ

ている。実態調査Ⅲでは、調査Ⅰ・Ⅱのときより确实学生のやるきが高くなっており、ピアノ習熟度の割合が高くなっていたことは、さらに学生に「やるき」を出させる指導の工夫が教師側に求められよう。

さて、表16は、「2年生になってあなたのピアノの練習方法がかわりましたか」と問うたものである。1年次では、歌、楽譜の学習方法はCD、MDなど音源を聴いて覚える、友達の歌うのを聞いて覚えるなどが非常に多く見られた。2年次の春学期終

表16 ピアノの練習方法がかわりましたか(複数回答)

方法	対象	第1期生・2年次(7月末)	
		人数(50)	%
1. 楽譜(ドレミ〜)と読んで覚える		25	50.0
4. 楽器でメロディを弾いて覚える		24	48.0
2. 音源CDなどを聴いて覚える		9	18.0
3. 友達・先生が歌うのを聞いて覚える		4	8.0
5・独学で覚える		2	4.0
6. その他		1	2.0

了時には、楽譜(ドレミ〜)のドレミと読んで覚え、楽器でメロディを弾いて覚えるとあった。これは、学生自身が、楽譜を読むことが、苦痛ではなくなったからであろう。自然に視覚から入ってくる楽譜を音符として捉え、理解しながら目と手と口で弾けるようになっているからである。これらのことによって、自発的なピアノ学習をする姿勢がでて、弾くことが楽しいと感じるのである。読譜力がついてくれば、ピアノに向かうことは、苦痛でなくなるはずである。結果、習熟度別の割合も高くなり、ピアノ進捗状況は非常に良好になったと思われる。

② 楽譜の認識度

表17は、入学して1年半経って楽譜が読めるようになりましたか?と問うたものを「1年次と2年次の読譜力の比較」として表したものである。1年次には、楽譜を読むことが苦手であると意識していた学生が全体の41.7%であったの

表17 読譜力比較表(年次別)

読譜力	対象		第1期生・1年次(入学直後)		第1期生・2年次(7月末)	
	48人	100%	50人	100%		
1. 全く読めない	5	10.4	0	0.0		
2. あまり読めない	15	31.3	5	10.0		
3. どちらでもない	10	20.8	4	8.0		
4. わりと読める	14	29.2	35	70.0		
5. 大変読める	4	8.3	6	12.0		

表18 読譜力と歌の覚え方(2年次7月末)(クロス)

読譜力	方法	歌の覚え方											
		第1期生・2年次(7月末)		1. 楽譜を階名唱		2. 音源CDを聴く		3. 友達が歌のを		4. 楽器で音をとる		5. 独学	
		50人	100%	25人	100%	23人	100%	24人	100%	29人	100%	8人	100%
1. 全く読めない		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2. あまり読めない		5	10.0	2	8.0	2	8.7	3	12.5	1	3.4	2	25.0
3. どちらでもない		4	8.0	0	0.0	3	13.0	3	12.5	1	3.4	1	12.5
4. わりに読める		35	70.0	19	76.0	16	69.6	17	70.8	23	79.3	5	62.5
5. 大変読める		6	12.0	4	16.0	2	8.7	1	4.2	4	13.8	0	0.0

が、2年次には、「わりと読める」70.0%、「大変読める」12.0%を合わせると82.0%の学生が読めると意識している。表18は、読譜力と歌の覚え方をクロスしてみた。「あまり読めない」の10.0%の学生のうち2人が「楽譜をドレミとして読んで覚える」とあり、「読めない」のではなく、学生はゆっくりとしたテンポであれば、楽譜を読めるからである。意識は「読める」であるが、人と同じテンポにはついていけないだけである。特に「わりと読める」学生は、「楽器を弾いて音を取る」が79% 1位、「楽譜を読んで」76.0%「友達」「音源」「独学」の順番であった。

2年次には殆どの学生が読譜力がつき楽譜を読めると意識していた。

③ ピアノとうたに対する意識

表19 2年生になってピアノを弾くのが好きになりましたか

対象 ピアノ 好き・嫌い	第1期生 ・2年次 (7月末)		2年次春学期終了時 ピアノ習熟度別									
			バイエル 90~100		バイエル 終了		ブルグミュラー		ソナチネ		ソナタ	
合計	50人	100%	15人	100%	10人	100%	21人	100%	2人	100%	2人	100%
3. どちらでもない	7	14.0	1	6.7	1	10.0	4	19.0	0	0.0	1	50.0
4. やや好きになった	27	54.0	11	73.3	7	70.0	9	42.9	0	0.0	0	0.0
5. 好きになった	16	32.0	3	20.0	2	20.0	8	38.1	2	100.0	1	50.0

表20 2年生になって歌うことが好きになりましたか

対象 うた 好き・嫌い	第1期生 ・2年次 (7月末)		ピアノ習熟度別 (2年次7月末現在)									
			バイエル 90~100		バイエル 終了		ブルグミュラー		ソナチネ		ソナタ	
合計	50人	100%	15人	100%	10人	100%	21人	100%	2人	100%	2人	100%
3. どちらでもない	13	26.0	5	33.3	3	30.0	4	19.0	0	0.0	1	50.0
4. やや好きになった	23	46.0	7	46.7	2	20.0	14	66.7	0	0.0	0	0.0
5. 好きになった	14	28.0	3	20.0	5	50.0	3	14.3	2	100.0	1	50.0

さて、この項では、ピアノと歌に対する意識について、表19の「2年生になってピアノを弾くことが好きになりましたか」、表20「2年生になって歌うことが好きになりましたか」とピアノと歌についてについて5段階で問うたものである。表19表の「ピアノ」、表20「歌う」の両方の回答から、「1. 嫌いになった」「2. やや嫌いになった」には、一人も回答していない。つまり、「どちらでもない」を前向きな意思と捉えると50名全員がピアノも歌も好きになったと回答している。これは、我々の指導の取り組みが、成果として現れたものと期待したい。

ピアノについては、特に1年次にピアノ未経験の学生や初心者の多くが、ピアノに対して一番不安を感じていた。表19の「バイエル90~100」のピアノ未経験者であった学生が、「好きになった」(20.0%)「やや好きになった」(73.3%)を合わせると15人中14人(93.5%)が「好き」と回答している。同じく「バイエル終了」(93.3%)、「ブルグミュラー」(81.0%)、「ソナチネ」(100.0%)の3つのグレードで「好きになった」と、つまりピアノを弾くことが楽しい(好き)と思う学生の意識変化が見られた。

表20の「歌うことが好きになったか」は、「バイエル90~100」(46.7%)、「ブルグミュラー」

(66.7%)の学生が、「やや好きになった」と前向きな回答をしている。「バイエル終了」(50.0%)、「ソナチネ」(100%)の学生は、歌うことが「好きになった」と積極的な回答をしている。歌い弾く活動は、学生自身が日々の練習の積み重ねによって、その楽しさを体験するものである。学生たちが、1年半の間に音楽を楽しいと感じられるようになってきているのがこの結果からよく分かる。学生には、今後も音楽する喜びや達成感を数多く経験してもらいたいものである。そこで2年生に1年次に質問した内容の保育者としての意識を尋ね、どのような意識変化が見られるのか探った。

④保育者・教員として必要なこと

さて、表21は、学生に保育者・教員に必要なことを尋ねたものである。表21は1年次にも同じ内容のものを聴いているので年次別で表した。

明らかに学生の意識は1年次と違いいろいろな視点から回答をしている。勿論、第1に「子どもを理解する」ことをあげており、1年次と同じ回答をして

表21 保育者に必要なこと（年次別）

保育者・教員に必要なこと	対象		発達第1期生・2年次	
	発達第1期生・1年次 (6月4日現在)	48人	100%	50人
4. 子どもを理解する	34	70.8	32	64.0
5. 子ども好きである	13	27.1	19	38.0
1. 専門的な知識・技術がある	9	18.8	18	36.0
7. 責任感が強い	12	25.0	16	32.0
12. 指導力がある	11	22.9	12	24.0
6. 熱意(意欲)がある	25	52.1	10	20.0
13. 根気が強い	19	39.6	9	18.0
14. 健康である	5	10.4	9	18.0
9. 明朗快活である	2	4.2	7	14.0
11. 創造力に富んでいる	1	2.1	6	12.0
15. 社会的常識がある	2	4.2	4	8.0
8. 協調性がある	2	4.2	3	6.0
3. ピアノがよく弾ける	7	14.6	2	4.0
10. 研究心がある	3	6.3	2	4.0
15. その他	0	0.0	1	2.0

いる。「子どもが好き」「責任感」「指導力」「熱意」までは殆ど1年次と同じであった。大きな変化は、第3位に「専門的な知識・技術」をあげていることである。

これは、学生達がこの1年半の間に関わり体験や、大学での学びの中で、保育者・教員には何が必要で重要であるかを学んできたからに違いない。音楽をすることも重要な技術の習得の一つであることは言うまでもない。2年次「春学期期末試験」のピアノ実技試験は、学生の音楽に対する真摯な態度は、良い演奏になって表れた。

第3章 まとめ

本稿は、発達教育学科の第1期生ととして入学した50名の学生の1年半にわたる学生の音楽を主体とした実態調査Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの報告である。

さて本調査Ⅲでは、音楽Ⅲ(ピアノ・弾き歌い)のピアノ実技試験後に学生に調査を実施した

ものである。結果で報告した通り2年次の学生のピアノ習熟度には、著しい変化がみられた。特に初心者コースの15名の学生は、バイエルの最終章にきており、試験に取り組む姿勢に力があつた。バイエル終了の10名の学生は、StepⅢの曲集に挑戦していた。また、ブルグミュラーコースには、バイエルコースから16名が進級していた。

入学当初、殆どの学生は、音楽の基礎である楽譜を読む能力が不足しており、基礎的知識も一からの学習であった。幸いに本学の音楽関連授業は「音楽Ⅰ」～「音楽Ⅷ」まで4年間ある。その内の「音楽Ⅰ～音楽Ⅳ」は、必須科目である。

そこで、筆者担当の「音楽理論」「歌唱」「弾き歌い」のML授業において読譜の取組みを毎授業に位置づけ、音符に慣れる機会を作った。学生が音楽活動〈読譜〉を楽しみながら身につけられることを心掛けた。自然に音符を読みながら弾くようになれば、学生は、新しい練習曲に積極的に挑戦するようになるものである。

つまり、もう人の手を借りなくても音作りが始められるからである。決して学生は、音楽を嫌いではなく、音符を読むことが苦手だけである。自発的にできるようになると、新しいグレードへ進級しようと学生同士刺激あいながら学びあう姿が見られるようになった。このように、初心者の苦手意識が軽減することで、ピアノを弾くこと、うたうこと好きになったと回答している。音楽の楽しさを学生自身が気づき、自発的音楽学習へと繋がっていったと思われる。学生の努力とそれを支える教師の連携プレーが、如何に大切であるか、今回の調査から実感した。今後の音楽指導は、単に弾いて歌うだけという技能の向上ばかりでなく、学生の自主性を促す授業改善が、今後益々重要になってくる。

また、学生の保育者・教員としての意識は入学時よりよりかなり明確になっていた。将来自分が就きたい仕事、そのためには、なにを学ばなければならないかをも認識していた。特に「専門的知識と技術の習得が重要である」と回答していることから、学生の意識が前向きに高まっていることが分かる。では、社会が求める資質の高い、教員・保育者の養成に向け、我々養成校の音楽教育は、如何にあるべきか、学生が抱える現状の問題点を考えてみた。

平成14年度から、我が国の教育は、「学校週5日制」という新しい制度の下で教育が進められ、それに伴って必然的に年間の授業時間数も縮減された。そうした中の学校教育を受けてきた現在の発達教育学科第1期生たちである。学生達がなぜこれ程までに、音楽の基礎である楽譜を読むことなどが苦手であったかが解明できた。

そこで、未来を担う子どもの音楽活動にかかわる指導者として、学生には、基礎的な音楽的能力は確実に身につけもらい、自から心豊かな表現者として子どもたちと音楽を通して関わって欲しいと願う。そのために、我々養成校の教員は、新しい時代に即応しうる音楽教育の在り方を考え、授業内研究、授業方法、教材研究をして指導する必要が今後の課題と考える。

実態調査 I 資料

第1回アンケート調査のお願い

東海学園大学人文学部発達教育学科第1期生として入学された皆さんの「入学前の音楽経験と楽譜に関する調査」を行います。この調査は今後「音楽」授業に生かしていくための資料として活用するものです。結果は、コンピュータによって統計的に処理されますので、あなた一人の回答のみを問題にすることや、公表することは一切ありません。本調査は「中部地区学会作成の調査票」を元に本学に必要な質問項目と、別途本学用の質問項目を付け加えた内容で構成されています。アンケートの方法は「学会」に準じて行います。なお、回答は、回答欄の□の中へ該当する番号を書き入れるようになっていました。また、番号以外の回答の場合は、具体的に□の中に記入してください。 ご協力をお願いします。 平成20年4月 東海学園大学

発達教育学科第1期生の入学前音楽経験と楽譜に関する認識調査 No.1

はじめに、以下についてご記入ください。

性別 1. 男性 2. 女性 回答欄

質問1-1. 大学入学前にピアノを習った経験はありますか？ 該当する番号を□の中に書いて下さい。
1. ある 2. ない 回答欄

1-2. 1-1で「ある」と回答した方にお尋ねします。大学入学までどの程度ピアノが弾けましたか？ 該当する番号を□の中に書いてください。 1つ選んで□の中にその数字を書いてください。

1. パイエル程 2. ブルグミュラー程度 3. ソナチネ程度 4. ソナタ以上 回答欄

1-3. 1-2でピアノ進度に回答された方にお尋ねします。ピアノはいつ頃から始めましたか？ 記入例に従って具体的に書いてください。

- 例 (小学校1年から高校2年まで) (11年間)
- 例 (幼稚園年少から小学校2年まで) (5年間)
- 例 (独学で高校3年より) (1年間)

回答欄

質問2-1. あなたは、ピアノ以外に演奏できる楽器がありますか。該当する番号を□の中に書いて下さい。
1. ある 2. ない 回答欄

2-2. 2-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。どのような楽器が演奏できますか。演奏できるものを全て記入してください。また、グレード取得級など具体的書ける人は記入して下さい。

- (* 但し、小中高で取り上げられた鍵盤ハーモニカやリコーダーは含みません。)
- 例(ギター、トランペット)(ヤマハ・エレクトーングレード6級)

回答欄

質問3. あなたは、自分が歌いたいと思う「うた」を、どのような方法で覚えますか？ 該当する番号を□の中に書いて下さい。

- 1. 楽譜(ドレミ)を読んで覚える
- 2. CDやMD,TV,携帯、パソコンの音源を聞いて覚える
- 3. 友達や先生が歌うのを聞いて覚える
- 4. 楽器でメロディー(旋律)を弾いて覚える
- 5. 独学で覚える (複数回答可)
- 6. その他

質問4. あなたは、楽譜を読んで新しい歌や知らない歌をうたうことがありますか？ 下記の5段階の数字に該当する番号を回答欄の□の中に書いてください

- 1. 全くしない
- 2. あまりしない
- 3. どちらでもない
- 4. ややある
- 5. 非常にある

質問5. あなたは、学校(小中高)の音楽授業でどんなことをまなびましたか？ よく学んだ内容順に()の中に番号をつけてください。記憶にないものは空欄にしてください

記入例	(1)歌・合唱	(2)楽器演奏	(3)鑑賞			
回答欄	()歌・合唱	()楽器演奏	()楽器演奏	()鑑賞	()音楽理論	()創作
	()創作	()音楽史	()その他	()その他		

質問5. あなたは、学校(小・中・高)の音楽授業で歌をどのように覚えましたか？ 該当する番号を選んで回答欄の□に書いてください。(複数回答可)

- 1. 楽譜(ドレミ)を読んで覚える
- 2. CDやMD,TV,携帯、パソコンの音源を聞いて覚える
- 3. 友達や先生が歌うのを聞いて覚える
- 4. 楽器でメロディー(旋律)を弾いて覚える
- 5. 独学で覚える
- 6. その他

質問7-1. あなたの学校(小・中・高)では、学校行事として合唱の発表会やコンクールがありましたか？ 該当する番号を□の中に書いてください

- 1あった
- 2なかった

7-2. 7-1で「ある」と回答した方にお尋ねします。あなたは、その時に歌った曲はどのようにして覚えましたか？ 該当する番号を選んで回答欄の□に書いてください。(複数回答可)

- 1. 楽譜(ドレミ)を読んで覚える
- 2. CDやMD,TV,携帯、パソコンの音源を聞いて覚える
- 3. 友達や先生が歌うのを聞いて覚える
- 4. 楽器でメロディー(旋律)を弾いて覚える
- 5. 独学で覚える
- 6. その他

質問8. あなたは、高校で「音楽」を選択しましたか？ 該当する番号を□の中に書いて下さい。

- 8. -1 1はい 2いいえ

8. -2 8-1で「はい」と回答した方にお尋ねします。何年生に選択しましたか？ 複数回答可

- 1. 1年生
- 2. 2年生
- 3. 3年生

質問9-1 あなたは、音楽系のクラブに所属したことがありますか？該当する番号を口の中に書いてください

1はい 2いいえ 回答欄

9-2. 9-1で「はい」と回答した方にお尋ねします。何のクラブに所属しましたか？

回答欄 小学校	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
中学校	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
高等学校	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

質問10. あなたは楽譜がよめますか？該当する番号を口の中に書いて下さい。

回答欄

1. 全くよめない 2. やや読めない 3どちらでもない 4. やや読める 5. 大変よく読める

質問11. あなたは、楽譜の読み方をどこでおぼえましたか？該当する番号を選んで回答欄に書いてください

該当する番号を選んで回答欄の口の中に書いてください。(複数回答可)

- 1. 小学校の音楽授業
- 2. 中学校の音楽授業
- 3. 高等学校の音楽授業
- 4. 部活
- 5. 習い事
- 6. 友達から
- 7. 独学
- 8. その他()

回答欄(複数回答可)

ご協力ありがとうございました。

実態調査Ⅱ資料

第2回アンケート調査のお願い

発達教育学科第1期生として入学された皆さんには、大学生活にも少し慣れてこられた頃でしょうか？4月に第1回「入学前の音楽経験」と「楽譜に関する調査」を実施しました。本日は、実態調査Ⅱを実施します。調査の内容は＜保育職・保育職に対する学生の意識調査＞と＜入学2ヶ月後の音楽調査＞です。意識調査は、「入学動機」「将来つきたい職業」「教員・保育者の職業観」「教員・保育者に必要な資質」などです。音楽調査は、「入学2ヶ月後のピアノ習熟度」「ピアノ練習時間」「練習場所」「楽器の有無」「自由記述」です。この調査は今後「音楽」授業に生かしていくための資料として活用するものです。結果は、コンピュータによって統計的に処理されます。あなた一人の回答のみを問題にすることや、公表することは一切ありません。なお、回答は、回答欄の口の中へ該当する番号を書き入れるようになっています。また、番号以外の回答の場合は、具体的に口の中に記入してください。ご協力をお願いします。 平成21年6月4日 発達教育学科 高御堂愛子

＜保育職・教育職に対する意識調査＞ 東海学園大学人文学部発達教育学科第1期生(1年次)

質問1. あなたの性別は？該当する番号を口の中に書いてください。

1. 男性 2. 女性 回答欄

質問2. あなたが、発達教育学科を選んだ理由として、ふさわしいと思われるものを1つ選んで該当する番号を口の中に書いてください

1. 子どもが好き 回答欄

- 2. 自分のこどもを育てるのに役立つ
- 3. 資格を取っておけば将来の生活に役立つ
- 4. 教員・保育者として仕事したい
- 5. 家族にすすめられた
- 6. 友人にすすめられた
- 7. ただなんとなく

質問3. あなたは、将来どこで一番しごとをしたいですか？該当する番号を口の中に書いてください。

1. 幼稚園 2. 保育園 3. 小学校 4. その他() 回答欄

質問4. あなたは、教員(小学校・幼稚園)保育者という職業をどのように思いますか？ふさわしいと思われるものを3つ選んでその番号を回答欄の口の中に書いてください。

- 1. 心身とも健康でなければならぬ
 - 2. 地味でありめだたない
 - 3. 重要で社会的に認められている
 - 4. 向上心・研究心がないとつとまらない
 - 5. こどもがすきでないとつとまらない
 - 6. 対人関係が難しい
 - 7. 高度な専門的技術が要求される
 - 8. しっかりした人生観教育観がなければできない
- 回答欄

質問5. あなたは、教員(小学校・幼稚園)保育者には何が必要であると思いますか？ふさわしいと思われるものを3つ選んでその番号を回答欄の口の中に書いてください。

- 1. 専門的な知識・技術がある
 - 2. ピアノがよくひける
 - 3. 子どもを理解する
 - 4. 子どもが好きである
 - 5. 熱意がある
 - 6. 責任感が強い
 - 7. 協調性がある
 - 8. 明瞭活発である
 - 9. 研究心がある
 - 10. 創造力に富んでいる
 - 11. 指導力がある
 - 12. 根気が強い
 - 13. 健康である
 - 14. 社会的常識がある
 - 15. その他()
- 回答欄

＜入学2ヶ月後の音楽実態調査＞

質問6. 入学して2カ月過ぎました。あなたのピアノの進度はどのぐらいですか？該当する番号を口の回答欄に書いて下さい。なお、現在練習中の番号、または、曲名を書いてください。

- 1. バイエル
 - 2. ブルグミュラー程度(StepⅢ)
 - 3. ソナチネ程度(StepⅢ)
 - 4. ソナタ以上
 - 5. その他
- 回答欄

6-1. あなたのピアノ練習についてお尋ねします。毎日練習しますか？該当する番号を口の中に書いてください。

毎日練習しますか？ 1. する 2. しない 回答欄

6-2. 2-1で「しない」と回答された人へお尋ねします。週何回練習しますか？該当する番号を□の中に書いてください
週何回練習しますか？

1. 1回	2. 2回	3. 3回	4. 4回	5. 5回	回答欄	<input type="text"/>
-------	-------	-------	-------	-------	-----	----------------------

6-3. 「毎日練習する」、「週何回か練習する」という方へお尋ねします。1回の練習時間はどの位ですか？該当する番号を□の回答欄の中に書いてください。

1回の練習時間

1. 30分 3. 2時間 5. 1時間半 7. 3時間半
2. 1時間 4. 3時間 6. 2時間半

回答欄

質問3. あなたは、主にどこでピアノ練習をしますか？該当する番号を□の中に書いてください。

1. 大学 3. 下宿
2. 自宅 4. 親戚・友人宅 5. その他

回答欄

質問4. あなたの自宅(下宿)には練習用の楽器がありますか？該当する番号を□の中に書いてください。

1. ピアノ 3. キーボード 5. オルガン
2. 電子ピアノ 4. エレクトーン

回答欄

<自由記述>

1. ピアノについて 2. 音楽理論について ご協力ありがとうございました。

実態調査Ⅲ資料

アンケートのお願い

このアンケートは、皆さんが東海学園大学発達教育学科へ入学されて、音楽Ⅰ～音楽Ⅲ(ピアノ・歌唱・弾き歌い)を受講し、入学時よりどの程度、皆さんが音楽的意識変化をされたか調査し、今後の授業内容を検討する資料とするものです。さて、皆さんは、新設された本学の人文学部発達教育学科第1. 期生として1. 年半になります。そこで、本日の実態調査Ⅲは、実態調査Ⅰの「音楽調査」と実態調査Ⅲの「保育職・教育職に対する意識調査」に関する継続調査です。よく考えてありのままお答えください。結果は、コンピューターによって統計的にしよられますので、あなた一人のみを問題にすることや、公表することは一切ありません。なお、アンケートは、回答欄の□の中に該当する番号を書き入れてください。

平成21年7月24日 発達教育学科 高御堂愛

<2年次春学期音楽実態調査> 東海学園大学人文学部発達教育学科第1期生(2年次)

質問1. 2年次「春学期」終了時のピアノの進捗についてお尋ねします。どのレベルになりましたか？該当する番号を選んで回答欄3の□の中に書いてください。

1. バイエル70～80番 2. バイエル80～90程度 3. バイエル100程度
5. バイエル104終了 7. プルグミュラー 8. 回答欄3.

質問2. ピアノの練習の場所と時間についてお尋ねします。あなたが大学へ入学して現在まで、ピアノの練習はどこでしていますか？又、練習時間は、週何回ののくらしいですか？該当する番号を各回答欄の中に該当する番号を書いてください

2.-1 練習場所	1. 学校	2. 自宅	回答欄4.	回答欄
2.-2 練習時間(1回につき)	1. なし	2. 20分	回答欄5.	回答欄
2.-3 練習回数(週1何回)	1. ない	2. 1回	回答欄6.	回答欄

質問3. 1年生のときにお聞きした同じ質問です。あなたは、「うた」を覚えるときどのような方法で覚えますか？該当する番号を選んで回答欄の□の中に書いてください。(複数回答可)

3.-1 <歌の覚え方> ※1年次入学時の音楽調査票と同じ質問項目のため省略。 回答欄

質問4. 発達教育学科へ入学して1. 年半になり、1年次と比較してあなたは、どの程度楽譜が読めるようになりましたか？該当する番を選んで。回答欄8の□の中に書いてください。

4.-1 <楽譜の読み方> ※1年次入学時の音楽調査票と同じ質問項目のため省略。 回答欄

質問5. あなたは入学して、1. 年半年、音楽Ⅰ～Ⅲの勉強をしました。ピアノ練習方法は、どのようにかわりましたか？該当する番号を選んで回答欄9の□の中に書いてください。

5.-1 <ピアノの練習方法> ※1年次入学時の音楽調査票と同じ質問項目のため省略。 回答欄

質問6 入学して1年半になります。あなたは、ピアノを弾くことが好きになりましたか？該当する番号を選んで回答欄の中に書いてください。(5段階の設定)

6.-1 **ピアノを弾くのが好きになりましたか？** 回答欄

1. 大変嫌いになった 2. 少し嫌いになった 3. どちらでもない 4. 少し好きになった 5. 大変好きになった

質問7 入学して1年半になります。あなたは、歌うことが好きになりましたか？該当する番号を選んで回答欄の□の中に書いてください。(5段階の設定)

7.-1 **歌うことが好くなりましたか？** 回答欄

1. 大変嫌いになった 2. 少し嫌いになった 3. どちらでもない 4. 少し好きになった 5. 大変好きになった

質問8(希望就職先)、質問9(保育職・教員職のとらえ方)、質問10(保育者・教員として必要なこと)

※1年次2ヶ月後の<保育職・教育職に対する意識調査>と同じ質問項目のため省略。

質問11 I 年半立ちました。今後、どんな内容の勉強(研究)に取り組んでみたいですか？思っていることを書いて、またまた、音楽の授業通しているいろいろな学習の中で感じたこと、思ったことを自由に書いてください。(裏面使用可) ご協力ありがとうございました